

学生へのメッセージ

二者択一なら、あなたはどっちを選ぶか。

(1) 大学に使いこなされている学生

目標意識が希薄、楽勝科目を選択
無事に卒業、何とか就職

大量産出なので使用価値はあるが、交換価値はあまりない↓効用減

(2) 大学を使いこなしている学生

自分らしさを追求、失敗も良い経験の一種
あらゆる機会を活用、積極性は人生の座右
量産できないが、使用価値も交換価値もある↓効用増

いずれ講義期間中に必ず言う言葉

〈読み〉

少年易老学難成 しょうねんおいやすく がくなりがたし
一寸光陰不可軽 いっすんのこういん かるんずべからず
未覚池塘春草夢 いまださめず ちとうしゅんそうのゆめ
階前梧葉已秋声 かいぜんのごよう すでにしゅうせい

〈意味〉

若い時代はうつろいやすく、学問いうものはなかなか成就しない
それゆえ、ほんのちよつとした時間すらも、おろそかにしてはならない
池のほとりに春の草が萌え出して楽しい夢からいまださめきらぬうちに
早くも庭先の梧桐(あおきり)の葉を落とす秋が来たことに驚くのだ。

(訳出典 石川忠久監修『NHK漢詩紀行』)
(題名『偶成』(ぐうせい)、作者 朱熹(しゆき)一一三〇〜一二〇〇。中国南宋の人)

経済学部非常勤講師

白 春 騮



はく しゅんりゅう
経済学部非常勤講師
新潟大学大学院現代社会文化研究科博士学位取得(経済学)。現在浜松大学国際経済学部勤務。中国経済と日本経済を中心に研究中。日本地域政策学会会員・理事、アジア経営学会会員。